

ワニは語る



無口なワニの目が
何かを語りかけてくる

みのすけ



動物園の爬虫類館のワニである。
大きな水槽の一点から殺気が漂って来る。
小ワニが息を殺しこちらを凝視していた。
私をえさと勘違いしているのかも知れない。
私にはえらい迷惑な事だ。

私とワニとの間にはガラスを隔て、安全は守られているが
不気味さはガラスを透し臆病な私の妄想を掻き立てる。

「人間さん。水槽の中で一緒に泳ごうよ」

「嫌だ。俺は泳げない」

「泳ぐと気持ちいいよ」

「嘘だ！今は冬で寒いだけだ」

尚も醒めた目がこちらを見ている。

ジャングルで出くわした恐ろしさを想像し

「おっさんの肉は不味いぞ」と言ってやった。

その時、にぎやかな笑い声がして若い娘2人が入って来た。

2人は「まあかわいい」を連発しワニの前を笑いながら通り過ぎた。

ワニも少し笑ったようだが目だけは挑戦的である。

「どこがかわいいねん！」私はつぶやいてしまった。



赤い花をプレゼントさせてください。

あなたを食べてしまいたいほど、好きになっても良いですか？

ワニは語る

<http://p.booklog.jp/book/58964>

著者：みのすけ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/minosuke7/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/58964>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/58964>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ